

第15回 錦江町文化祭

生涯学習大会

11月2日から3日にかけて、町文化祭と生涯学習大会が開催されました。3日の舞台イベントでは、舞踊やコーラス、民謡、ダンスなど日ごろの練習の成果を披露。夏休みにトワイライト事業で与論町を訪れた子どもたちによる報告会では、研修を通じて感じた「つながりの大切さ」について13名が発表しました。今回初めての参加となった神川地区の「田の神踊り」や、「上柴立棒おどり」など、長い歴史をもつ地域独自の郷土芸能も行われ、観客からは盛大な拍手が送られていました。ホール外では茶道教室によるふるまひ抹茶や、地元加工グループによる飲食ブースなど、味覚、食欲の秋を楽しむ姿も多く見られました。

また、総合交流センターや文化センターで2日間開催された作品展示では、写真や手芸、書道、児童生徒の作品など数多く展示。個性の光るこだわりの数々に、訪れた人は芸術の秋に触れた週末となりました。



「上柴立棒おどり」次世代へ**伝統**を受け継ぐ

昭和10年、田代尋常小学校講堂の落成記念で奉納したことが公式奉納として記録されている。太平洋戦争で一時中断したが、昭和57年に上柴立自治会で保存会復活が始まり、昭和58年に若宮神社奉納に向けて活動を再開。平成15年からは保存会の指導協力により田代小学校の伝統芸能継承活動が始まる。現在は5・6年生の児童が夏休みに練習し小学校運動会で毎年披露している。今年は肝属地区広域文化祭にも出演。



先人から引き継がれる地域独自の伝統や文化。毎年開催される「文化祭」はそれぞれの地域がもつ歴史や伝統、さまざまな特色を生かして披露する文化の祭典！。

そこで生み出され、次世代へ受け継がれる伝統や歴史の価値を継承し発展させることがまちの「宝」に気づき守ることにつながる。

「神川地区の田の神踊り」親から子へ地域の**歴史**を継ぐ

かつて神川地区の婦人会が中心となり、地域の祭りごとで披露していた「田の神踊り」。唄い手が田植えや掛け干し、脱穀など稲作の一連の様子を唄い、それに合わせて演じる独特の踊りだが、平成2年に以降途絶える。平成16年に当時文化部長を務めていた牛飼実敏さんによって復活し、数年おきに披露されていたが6年前を最後に活動を休止。今年の夏まつりで町青年団も協力して活動を再開し、錦江町文化祭では今回初めて披露した。神川小学校の児童や先生も参加し、地域コミュニティのきっかけになっている。



姉妹町「与論町」との**つながり**を継ぐ

与論で過ごした4日間で子どもたちが学んだこと文化祭で発表した感想文から一部ご紹介します



与論に行く前に行われた事前研修会で、旧田代町と与論町が姉妹町になった歴史をすこし教えてもらいました。私は、お父さんをお願いして与論に行く前に姉妹町のきっかけとなった盤山に連れて行ってもらいました。そこは与論とは真逆の地域で、山に囲まれ冬はとても寒い地域です。「どうして与論に帰らないで田代に来たのだろう」と思いましたが、開拓した人の記念碑には戦争の苦しさを書いてあり、戦争がきっかけで与論とつながっていることも少し複雑に思いました。戦争がなければ盤山もなく歴史も変わっていたのかもしれない。でも戦争を通じて与論町と姉妹盟約が結ばれました。悲しい出来事がきっかけでできた「つながり」だけど、これまで交流を続けてきてくれた人たちのおかげで楽しい夏休みを過ごすことができました。「つながり」は目に見えないけど、人を思いやる気持ちが大切だと学べた夏でした。

田代小学校 5年 今村愛来

- 1 鹿友会による民謡・三味線
- 2 渚のフラダンス
- 3 公民館講座や各教室による作品展示
- 4 ダンススタジオエナジーのヒップホップダンス
- 5 太極拳大根占教室
- 6 ジョイサウンズの演奏
- 7 小さなお子供たちも元気よく発表